

2015年度第1回物性委員会幹事会 議事録

日時：2015年8月23日（日）13:00～15:00

場所：I-siteなんば 2F S1室

出席幹事（敬称略）：野村（北大）、野尻（東北大）、石原（東北大）、大塚（筑波大）、家（東大）、出口（お茶大）、古崎（理研）、西田（豊田理研）、伊藤（名大）、早川（京大）、村田（大阪経済法科大）、播磨（神戸大）、藤（神戸大）、中西（九大）

オブザーバー：加賀山（阪大）

事務局：石田（大阪府大）、田中（大阪府大）、加藤（大阪府大）、戸川（大阪府大）

計19名 事務局事務 渡部（大阪府大）

配布資料

- a. 申し合わせ事項
- b. 東大物性研からの物性研人事選考協議会委員の推薦依頼状及び現在の委員リスト（回覧）
- c. 各種推薦委員選挙結果履歴（物性研人事選考協議会委員，物性研協議会委員，物性研共同利用施設専門委員会委員，京大基研運営委員）
- d. 議事進行資料
- e. 物性グループ構成員名簿（回覧）
- f. 3月拡大物性委員会議事録（回覧）

議題

1. オブザーバー（次期事務局から加賀山）参加承認
2. 「東大物性研人事選考協議会委員」（3名：物性物理2名、物理化学1名）の推薦のための投票
3. 事務局からの報告事項
 - （1）拡大物性委員会（9月16日）議題紹介
 - （2）事務局引き継ぎ時の議事録の取り扱い
 - （3）物性グループの会費など
4. 大型計画など幹事会の今後の議論の進め方について
 - （1）事務局より（サポートレターの事例に学ぶ、マスタプラン2014に学ぶ）
 - （2）他分野、他学会との連携模索
 - （3）幹事の意見聴取
5. 今期の幹事会活動を振り返って
 - （1）今期の総括（事務局）
 - （2）コメント聴取（幹事から）
 - （3）総合討論（今後に期待することなど）
6. その他

選挙に関する注意：★ノミネーションにあたっての参考にして頂きたい事項★

（物性研依頼事項と物性グループの申し合わせ事項より抜粋）

1. 田島節子（阪大理）、田仲由喜夫（名大工）、島川祐一（京大化研）（任期26.4.1～28.3.31）の後任委員の選出で、任期はH28.4.1～H30.3.31である。その他に、川上則雄（京大理）、高畠敏郎（広大先端物質）（任期H27.4.1～29.3.31）が物性委員会推薦委員として応職中。
2. 今回は、物性物理学分野から2名、物理化学分野から1名を推薦する。実験と理論のバランスも配慮する。
3. 物性グループから推薦された新委員は専門分野の代表としてではなく、全分野的視野に立って高い立場から物性研究所の教員人事に参画する。
4. 年齢は委員の任期中に65歳（東大の定年）を越えないこと。

5. 「物性研研究所協議会委員」、「共同利用施設専門委員会委員」との重任を避ける。（「共同利用施設専門委員会委員」リストは各グループの物性委員に送付済、「物性研研究所協議会委員」（★H20以降は学術会議が推薦★）は添付ファイルを参照）
6. 2年を超えて、引き続き連続して人事選考協議会委員に就任することは避ける。
7. 同一大学同一部局に所属する委員が含まれないように選出する。
8. 幹事会では、まず候補者のノミネーション(欠席の幹事から寄せられたノミネーションも含む)を行う。
9. 幹事会での投票により推薦候補を決定する。
10. 推薦された候補者には、物性グループ事務局より意志確認を行う。
11. 物性委員会より物性研へ推薦する (H27. 10. 30〆切)

幹事会議事録

1. オブザーバー（次期事務局から加賀山）参加承認
出席幹事により承認された。
2. 「東大物性研人事選考協議会委員」（3名：物性物理2名、物理化学1名）の推薦のための投票
 - ① 追加ノミネーションのため無記名で2名(物性2名・物理化学1名)を連記
 - ② 欠席幹事の方も含め、ノミネーション結果を踏まえ第1回投票
 - ③ 2票以上獲得した候補者から第2回投票を実施
 - ④ 以降、決定するまで繰り返すが、第4回投票時点で抽選を行う。
 - ⑤ 正候補、+次点+次々点

有効投票数：32票（幹事16名が各分野2名を記入）した結果のノミネーション結果
 物性物理学分野 物理化学分野

村上洋一	守友浩
江藤幹雄	白石賢二
石田憲二	永長直人●
有馬考尚	小池洋二
坪田誠○	川地
木村薫	田仲由喜夫×
田中秀数○	鈴木孝至
松川宏	大熊哲
網塚浩	出口
小島誠治	
今田正俊	
前野悦輝 ●○	
藤森淳	
鹿野田一司	
播磨	
田崎晴明●	
萩原政幸○	

中澤康浩
野原実○
吉村一良
中村敏和
陰山洋
阿波賀
東正樹○
乾雅祝
野末泰夫
川勝年洋
田島裕之

- 注 ● 物性研協議会委員 4号委員 日本学術振興会推薦 26.9.1～28.8.31
 ○ 物性研共同利用施設専門委員会 3号委員 物性委員会推薦 27.4.1～29.3.31
 × 物性研人事選考協議会委員 物性委員会推薦 26.4.1～28.3.31

- ・第1回投票
物性物理学分野：10名、物性化学分野：6名 を選出
- ・第2回投票
物性物理学分野：6名、物性化学分野：5名 を選出
- ・第3回投票
物性物理学分野：5名、物性化学分野：3名 を選出
物性物理学分野の2位候補、物性化学分野の1位候補が同数票であった。
第4回投票で同数評者の決選投票を行うことが幹事会として確認した。
- ・第4回投票（* 幹事16名が各分野1名を記入）
決選投票でも同数票であったため、抽選を行った。

以上により、候補として、

物性物理学分野：松川宏（理論）、
網塚浩（実験）

物性化学分野：陰山洋（実験）

次点として、

物性物理学分野：今田正俊（理論）、
大熊哲（実験）

物性化学分野：中澤康浩（実験）

次々点として、

物性物理学分野：出口哲生（理論）、鹿野田一司（実験）

物性化学分野：吉村一良（実験）

を選出した。辞退者などで変更があった場合は、次点のリストから選出する。

最終結果

	候補	次点	次次点
物性物理学分野	松川宏	今田正俊	出口哲生
	網塚浩	大熊哲	鹿野田一司
物性化学分野	陰山洋	中澤康浩	吉村一良

<幹事コメント>

・物性研には協議会委員、共同利用施設専門委員会、人事選考協議会委員などの委員があり、重複を避けるように推薦、選考するのが困難である。各種委員で推薦母体の違いもある。また、「重任を避ける」と「重任を禁止」では意味が異なる。詳細を把握するのが複雑である。次回までに改善方法を検討していただきたい。

→相談して行きたい。混乱は起こさないようにした方がよい。

・“東大の定年を超えない”の意味は？

→応職中に66歳にならないということ。昨年度に上田幹事から説明があったが、東大の方針である。

3. 事務局からの報告事項

(0) 事務局報告

事務局長が会員と会計について報告した。

2015年8月の時点

会員数：1115、グループ数：225、物性委員数：251

会計：¥629,370 (2015/8/22)

事務局引継ぎの時点(2011/9)

会員数：1022、グループ数：171、物性委員数：178

会計：¥2,070,716 (2012/10/5)

本年度の主な支出は、バイト代などの人件費、新聞記事の物性グループ web site 掲載などの事務費、幹事会の旅費。また、残金が60万程度と減少していることが報告された。

(1) 拡大物性委員会（9月16日）議題紹介

- ① 開会
- ② 委員長挨拶 (5分)
- ③ 事務局報告 (15分)
- ④ 【招待講演】我が国の電子ジャーナルの購読困難問題を考える - いずこも同じ秋の夕暮れ 講演30分、質疑応答10分 (物質・材料研究機構(NIMS) 科学情報室 室長 谷藤幹子) (40分)
- ⑤ 日本物理学会の現状 講演13分 意見交換7分 (日本物理学会会長 藤井保彦) (20分)
- ⑥ 物・一分科会からの話題提供 (春からの進捗) 講演12分、質疑応答8分 (日本学術会議物性物理学・一般物理学分科会幹事：河野公俊) (20分)
- ⑦ 今期の物性グループ活動を振り返って：意見・コメント聴取 (10分)
- ⑧ 次期事務局挨拶 (5分)
- ⑨ その他 (5分)
- ⑩ 閉会

9月16日の拡大物性委員会に予定されている議題が紹介された。

(2) 事務局引き継ぎ時の議事録の取り扱い

- ① 東工大議事録三件
- ② 3月拡大物性委員会議事録
- ③ 8月幹事会議事録、9月拡大物性委員会議事録

事務局引継ぎのタイミングで欠落する議事録(幹事会、拡大物性委員会(秋と春)の3件分)を物性グループのweb siteに掲載することが幹事承認された。また、前事務局(東工大)の議事録分まで遡って掲載することが幹事承認された。

(3) 物性グループの会費など

- ① 会費は次の更新期に通常に戻すことを原則とする。
- ② 次期の事務局では、幹事会の開催を年1~2回とすることを検討課題として頂く。

事務局より①、②が提案された。

<①に関して>

2015/8/22での会計残金は¥629,370である。次にまとまった収入がはいるのは時期会員更新のタイミングとなる。これは次期事務局が開催予定の幹事会の2回分程度の予算規模であり、事務局の予算としてはぎりぎりになっている。活動が広範になってきているため、予算的にも対応できるようにしておいた方がよい。以上の経緯が報告され“会費を次の更新期に通常に戻すこと”が事務局より提案された。

<②に関して>

通常の幹事会に加えて、シンポジウム開催などに関連して幹事会を別途開く必要が出てきていることが説明された。

これらの提案は幹事承認され、拡大物性委員会で会員に提案されることが決まった。

<幹事コメント>

西田幹事(前物性委員長)：経緯を説明する。以前は、事務局が預かる予算が多くなっていた。東北大や東工大の事務局で書類(事務局報)の印刷、郵送を止めたことなどが要因の一つ。本事務局の活動状況を見ると、会費を元に戻せば、活動規模とのバランスがとれる。“値上げではなく過渡的措置を元に戻す”と拡大物性委員会で提案すればよい。

4. 大型計画など幹事会の今後の議論の進め方について

- (1) 事務局より（サポートレターの事例に学ぶ、マスタープラン2014に学ぶ）
- (2) 他分野、他学会との連携模索
- (3) 幹事の意見聴取

<委員長の趣旨説明>

日本学術会議の田島会員から「物性コミュニティが常日頃より大型計画に関して議論してはどうか」との提案があった。“次期幹事会と物性委員会がどのように対応していくか？”方向性の申し送り事項を作っておきたい。

・大型計画を検討する研究機関からの要請に対して、物性委員会（コミュニティ）としてのサポートの意思を示すというのは一つの形式となる。

・学術会議のマスタープラン2014で、情報学から電子ジャーナルのバックファイルの「国家としての整備が要求された」ことを参考にしてよいであろう。

<幹事コメント>

西田幹事：全般的なことに關する提案である。それとは別に、個別の案件として、物構研や放射光関連の将来計画が議論されている。村上幹事に連絡をとって、放射光関連の話を9月の拡大物性委員会の議題としてとりあげていただきたい。短時間でもよい。

委員長：現時点ですべてに対応することは難しい。事前に事務局に情報提供もなかったことと、時間的制約もあるし、学術会議からの報告もある。方向性をどうするかについて議論したい。

西田幹事：各研究機関の情報をコミュニティ全体に共有させるには、拡大物性委員会の場が最適。放射光に関しては、今が重要なタイミングであり、緊急性のある話である。

野尻幹事：放射光に関して、村上幹事に短時間でよいので報告してもらったらよい。物構研はシンポジウムを行って議論している。放射光学会では取り上げられているが、物性コミュニティで議論されていない。物性コミュニティ内で現状を聞く場を設けるのがよい。

家幹事：東北リングの話などとも関わっている。関連して、物構研の将来計画が議論されている。物性コミュニティにおいて情報を共有して、議論しておくべき。

委員長：大事なお指摘と理解した。配布資料と意見交換の時間なども利用して議論していただきたい。

西田幹事：全体に知らせるべきことがあるので、機会を設けてほしい。

野尻幹事：計画の段階から物性コミュニティがかかわって意見交換しておく方がよい。意見交換できる場を設けるように事務局運営をしていただきたい。

委員長：物性委員会の動き方として、2つの形式を考えている。研究機関から問題の提案があつて物性委員会・幹事会で議論するという形。もう一つは、幹事会・物性委員会が発信元になって議論を進めるという形。今回の話は、前者の形を採っていただけると対応しやすくなる。

野尻幹事：物性コミュニティとして大型計画に対して意見を集約する場を設けるべき。2014年のマスタープランで物性コミュニティからの声があがらなかった。2016年、2017年の見直しに対して、対応を検討する時期になっている。議論をはじめないと間に合わない。9月にどこまでできるかは別として、次期事務局でも考えて頂きたい。

委員長：緊急性が高いということを押さえて、次期幹事会と次期事務局に申し送る。9月には短時間でできる範囲のことをやるようにしたい。

西田幹事：放射光に関しては、担当コミュニティ内で具体的な計画が議論されている。それを他のコミュニティにひろく伝えるには拡大物性委員会が最適になる。

野尻幹事：今回の話は担当機関やどのような運営の仕組みになるかが決まっていない。他に共同利用にも関わってくる。個々の学会内だけで議論しているようでは問題となる。

委員長：放射光は多くの分野がかかわっているが、物性コミュニティからの提案だとの声もある。大型計画は物性グループにとって大きな課題ともなる。

家幹事：マスタープラン2014は反面教師にしていきたい。分野で分けるというやり方がまずかった。日本全体として何が必要になるかという議論をしたい。東北リング・放射光の将来計画は違うレベルで進んでいる話かもしれない。ユーザーとなる物性グループとしては、担当機関の活動をwatchしておくべき。

委員長：担当母体から依頼があればコミュニティとしてのサポート体制は作りやすい。

家幹事：天文・素粒子では常に議論を行っている。物性も同様の活動をすべき。

野尻幹事：具体的な提案としては、春の拡大物性委員会では取り上げていただきたい。また、マスタープランの作成状況を聞く場を設けていただきたい。現状を知る場を設けてはいかがか？

委員長：マスタープランに関しては、春では遅いかもかもしれないと伊藤委員長が言われていた。物・一委員会から今回の拡大物性委員会で関連する発表はないでしょうか？

家幹事：物・一委員会からはマスタープランに関する話はでないのでは。

委員長：拡大物性委員会で質問することは可能かもしれない。大型計画に関しては、可能な範囲で活動をしたい。

家幹事：拡大物性委員会は時間が限られている。物性研やKEKでの研究会を行って対応していくこともできる。

委員長：研究会などで問題意識をシェアする機会を設けていただけるとは大変ありがたい。

5. 今期の幹事会活動を振り返って

- (1) 今期の総括（事務局）
- (2) コメント聴取（幹事から）
- (3) 総合討論（今後に期待することなど）

<事務局の総括>

委員長：

- ・前事務局の引き継ぎを受けて活動を開始した。“物性研究の現状と将来”はその一環として継承した。
- ・物性グループへの参加者拡大に努力した。
- ・学術会議との連携を強化した。学術会議からも物性委員会幹事となっていた。
- ・物理学会などとの連携を強化した。報告し合う形を作ることも検討している。
- ・電子ジャーナル問題では物性コミュニティ以外のコミュニティへも発信できたと考えている。

<幹事のコメント>

早川幹事：物性委員会がカバーしている分野が限られている。光・量子情報などが欠けている。

委員長：物性グループとして真のコミュニティになるためには、カバーできる分野からは参加していただけるようにしていきたい。

中西幹事：特に意見はまとまっていない。

大塚幹事：WGに参加したが、担当する仕事があるとやりやすい。夏の幹事会に集まるだけでは仕事が明確でない。幹事会や拡大物性委員会以外にも集まる時間があればよいと思う。放射光の話は物性委員会全体で共通認識をもつのは難しい気がする。物性は対象とする範囲が広いので、全体で問題を議論するのはなかなか難しい。物理学会での領域制度の問題は物性だけの話なので改革してほしい。

石原幹事：メンバーの分野構成をバランスよくしたい。研究者の規模に比べて東京大学の寄与が少ない。大型施設の情報を物性委員会で共有すべき。

野尻幹事：共同利用に関して、個々のサポートレターの発行に加えて、活動を常日頃より見ておくべき。

西田幹事：電子ジャーナルの活動はよかった。物性委員会は学術会議との関係がなくなったことにより、各学会と物性グループとの関連がなくなった歴史があった。各コミュニティ間の連絡をとれる場として機能していただきたい。

籾幹事：電子ジャーナルの問題などで若手研究者が物性委員会に興味を持つようになった。拡大物性委員会に若手・中堅クラスの研究者が参加できるようにしていただきたい。共同利用施設の使い方の説明の場などがあってもよい。

野村幹事：分野は物性Ⅱがベースになっているが、全体に広がっていただきたい。国分寺構想をやってみてもよい。電子ジャーナルはよかった。

伊藤幹事：電子ジャーナルに関する活動に感謝する。WGで働いたが、歯止めがかかるかどうか、今後が心配である。若手が自分たちの活動と物性委員会との関わりを自覚していない。大型施設のことを話し合う場があれば関わってくるであろう。

家幹事：3年間ありがとうございます。分野の拡大、各世代の参加、幹事の世代交代が課題。若者の関心は予算、ポストである。情報提供の場になればよいが。

播磨幹事：この3年間で物性委員会・幹事会と周囲との体制を構築した。最終年度に近づいて、電子ジャーナルなどで実のある議論ができたであろう。私は2期目であるが、前回、progressに関して臨時の幹事会が開催された。（早川幹事：私が幹事会を要求した。）アピールを行った。放射光の話などに関連して、幹事から事務局に働きかける場があったらよい。3年間で幹事は解散するが、連続性や活性化が必要となり、継続幹事は配慮してもらいたい。

村田幹事：電子ジャーナルは頑張った。大型計画に関して、問題を提案した後にただ聞くだけではなく、その後の対応を考えておく必要がある。短期研究会などは一つの形になるであろう。そこまでやならないと意味がない。電子ジャーナルの活動をきっかけに、若手から物性委員会に参加する（会費を払う価値がある）という声を聴くようになった。

古崎幹事：統計や量エレの分野が参加して、物性全体をカバーできるようになればよい。若手が参加していない。幹事に40代が少ない。若手が拡大物性委員会に参加できるようになればよい。

出口幹事：電子ジャーナルの問題は、自分自身が困っていたこともあり、助かった。幹事になるまで物性委員会のことを知らなかった。メリットは大型計画を提案できる母体であること。素粒子などは計画を多く持っており統率がとれている。物性分野は物理学会の8割ぐらゐを占めているが意見を言わない。まとめると強くなる。

事務局長（田中）：3年間ありがとうございました。分野が少しずつ広がっており、数にも表れている。電子ジャーナルなど問題に取り組み、新しい活動のパターンが見えてきたかと思う。支援いただきありがとうございます。また、幹事の皆さんよりコメントを頂き、物性コミュニティがやるべき課題がまだまだ多くあることがわかった。次期事務局にお願いしたい。

事務局員（加藤）：事務局員として、主に選挙やweb siteの立ち上げを行った。どこまでうまくいったかはわからないが、3年間ありがとうございました。

事務局員（戸川）：3年間ありがとうございました。議事録を担当してきたが、世の中の決まってくる動きを学ばしていただいた。若手が見てもとても面白いと思う。でも機会がないので、参加できる仕組みがあればよいかと思ひます。

委員長（石田）：事務局として、巽さん、渡部さんが手伝ってくださいました。感謝します。（拍手）本来ですと、各コメントに返答しなければいけないですが、一つだけ。物性研・基研・東大理物・東大物工・早稲田大・慶応大に物性委員長から物性グループに参加の呼び掛けを行ったことを紹介したい。さらに広げていただき、また、光・原子エレクトロニクス関係にも呼びかけていただきたい。物理学会に来れば拡大物性委員会にも参加するようになればよい。若手から拡大物性委員会の場合は敷居が高いと聞いたことがある。拡大物性委員会を怖い場にはしないようにご協力ください。9月の拡大物性委員会への参加をお願いしたい。

村田幹事：感謝をいしましょう。（拍手）

委員長（石田）：お互い様です。ありがとうございます。（拍手）

次期事務局から一言お願いします。

次期事務局（加賀山）：私一人の参加でしたが、4人で集まって、相談していきたい。事務局は情報の共有、交換の仕組みを作り、幹事に仕事を振ることだと理解した。頑張りたい。

6. その他

<コメント>

拡大物性委員会が18時から開催されるが如何にも遅い。もう少し早くならないか。主として、領域8のプログラム終了時間が遅いためだろう。何とか検討できないだろうか。

（終了・散会）